

私のかかわった子育て支援

特定非営利活動(NPO)法人
お助けネット代表 中谷 通恵

①私のかかわった子育てネットワークと問題意識の変化

平成2年 白老町に住む ～少子化・都市化・核家族化～消費・競争社会

平成3年 白老町育児サークル「トコトコ」発足 わが子は愛しい・でも悶々とした気持ち

*子育てへのマイナス感情(不安・孤独・不満・あせり・混乱)を解消したい。

*みんな(有職者も専業者も)様々な悶々とした気持ちを抱いている。

*育児サークル…共感→安心→自分なりに頑張ろう→子育てへのプラスの感情

平成5年 子育て通信「心の基地になりたくて」発行

平成7年 胆振管内育児サークルへのアンケート調査

*父親が主体的に子育てしている家族→母親は子育てへプラスの感情

→子ども「自分は愛されている」「人間って、いいな」

*子育て支援を享受できている家族 → 子育てへプラスの感情

*父親の子育てへの参画を保障する

*子育て支援を網の目のようにはりめぐらせる

*母親には共感と安心の場・他人の子もメンコイと感じる場を！

他の大人には、子どもの発達のだん筋を学ぶ場を！

*大人が公共性をもった市民として成長する必要…大人の社会力

平成8年 子育て通信「父親版」発行

平成10年 託児グループ「ぽっぽ」発足…個人託児・集団託児

平成12年 「学ぼう！子育て支援」発行

子育て支援へのニーズは、多様である

・共働き…労働条件(休暇、労働時間、意識)・インフラの整備(保育所、一時託児, 学童保育など)

・専業…子連れで交流できる場・自主活動への支援、一時預かり、再就職への可能性

平成16年 特定非営利活動(NPO)法人お助けネット 設立

平成19年白老町より「つどいの広場」「ファミリーサポートセンター」事業を受託(子育てふれあいセンター管理運営)

平成21年 訪問型家庭教育支援事業の支援チームを任される

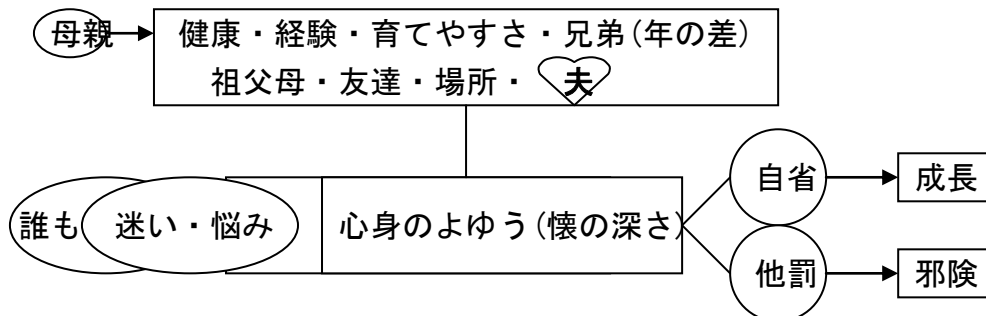
* H.8年～12年、毎年

町内で、子育て・子育て支援

男女共同参画・性教育などの

講演会を企画、実施

② 学んだこと・気づいたこと



孤立・不安・競争の子育て → 人とのつながりの中で 安心の子育て
(消費・依存・損得・優劣) (大人としての見識・自立・共生)

< 活動を始めたきっかけ・活動の特徴 >

- ★ 母親たちのその時々切実な願い……「友達がほしい」「子育てや自分のことを語り合いたい」「お父さんたちに伝えたい」「こんな支援が欲しい」「子育て支援について学ぼう」「仕事と子育ての両立が可能な社会を我が子に」「信頼を得るため法人化しよう」「拠点が欲しい」「活動が継続可能になるように公共の仕事を受託したい」「国の補助事業を利用して出来る事業を町に提案しよう」……をエネルギーとして、地域の他の世代の方のお力をいただいて、『変身』してきたように思います。
- ★ そのため事業の対象も、自分たちの子どもの成長に従って、乳幼児から学童・思春期まで渡っています。子育て支援を意識するようになってからは、広く町内全体に呼びかけながら人材育成に取り組めたので、20代から70代まで幅広い仲間が集まりました。また、拠点をもちたことで、それぞれの部でリーダーが力を発揮し、個々のメンバーが持ち味を発揮して活動出来るようになりました。
- ★ 【北海道にある元気まち】白老町は、人口2万人ほどの小規模な自治体です。早くから『協働のまちづくり』に行政も積極的だったこともあり子育て支援の施策や事業の協働も少しずつですが進みました。当初は、町の審議会などで発言する程度だったのが、町の支援センターが開設する時に自分たちでアンケートをし提案することや、「出来ることは始めよう」と託児グループを立ち上げるなど動きました。小さな活動でしたが熱意と実行力が伝わり、法人化後は、いくつかの事業を受託されています。特に現在行っている受託事業は「国の施策を白老町でも実施してほしい。そして私たちに委託してほしい」とこちらから働きかけ、計画の最初の段階から協働でつくりあげてきました。
- ★ すくすくひろばを拠点として、出張型のサロンやファミリーサポートセンター、訪問型支援などさまざまな家庭のニーズに応えてくる中で、自然と行政等の様々な機関(支援センター・保健師・保育園・療育機関・学校・社会福祉協議会・民生児童委員など)とのつながりができ、包括的な支援が可能になってきたように感じます。

< NPO法人お助けネットの活動 >

- 【目的】 0歳から20歳までの子どもの健全な成長が保障される地域社会の実現を目指して活動
- 【願い】 活動拠点である白老町子育てふれあいセンターの愛称は『すくすく3・9』
関わっている人すべてが「生まれてきてくれてありがとう」「共に育ち合える喜びにありがとう」と思えるような場所
- 【会員数】 提供会員(法人正会員)40名 賛助会員20名
- 【財政】 年間予算500万円程度(うち8割近くが町からの受託事業分)
- 【利用者数】 ひろば年間のべ4500人、ファミサポ年間のべ1500人。子育てサロン(年4回150人)・親のためのミニ講座(年10回程度100人)他に小学生向けイベント(年5回程度300人)・小学生の放課後活動(年20回程度400人)
- 【活動内容】 事務局運営スタッフ8名が各部のリーダーとして4つの部の事業を推進
- ★ つどいの広場事業部(スタッフ13名)
すくすく広場の企画・運営・・・毎月必ず全員でひろばの会議を持ち研鑽している
(月・火・水・木・土10時～15時。金曜・日曜・祝祭日・第4月曜日休館。)
- ★ 託児部(スタッフ45名)ファミリーサポートセンター・集団託児
- ★ 情報交流部(13名、イベント時は全会員) 情報誌の発行(月1回)・おもちゃ広場事業(カプラやゲームなど学童向け)・大人のためのリフレッシュ講座
- ★ 相談部(スタッフ6名)ミニ講座(プレパパプレママ・乳幼児・学童・思春期向け)・個人相談・講師派遣
- ★ 小学生向け放課後活動(外遊び・中遊び)月2回程度(スタッフ6名)
- ★ 全道規模の子育て支援研修会の実施・ネットワークづくり・視察研修受け入れ